

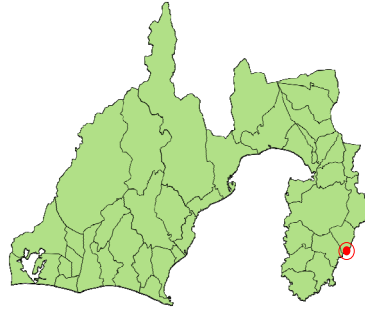
# 伝統ある稲取産テングサの維持・保全

## 伊豆稲取藻場保全会

### 地域の特徴

稲取地区は、静岡県の伊豆半島東海岸の中央に位置する東伊豆町にある。地区内では、「稲取キンメ」を代表とする一本釣り漁業や採介漁業、刺網漁業等が行われている。

また、透視度が高い海域であることから、四季を通して多くのダイバーが訪れる。

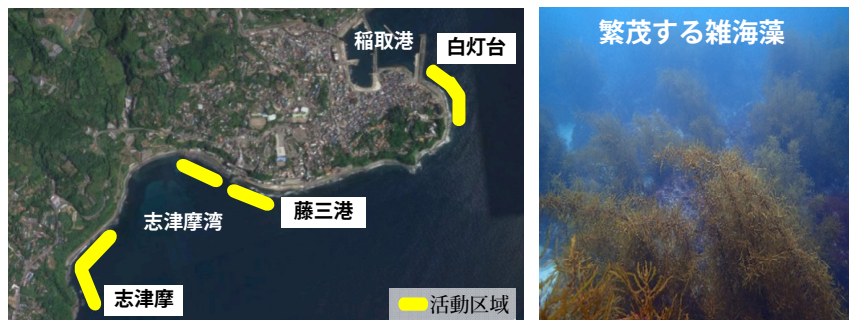


### テングサ藻場の現状

稲取地区におけるテングサ漁業は、江戸時代から続いており、かつてはテングサの一大産地であった。特に、地区のテングサはマクサよりも寒天成分が多いとされるオオブサの割合が高く高品質であり、高価格で取引され、地区のテングサ相場が国内相場を動かしていたという。

しかし、海女の高齢化や後継者不足から平成6年に60tあったテングサ漁獲量が、平成30年には175kgまで大幅に減少した。

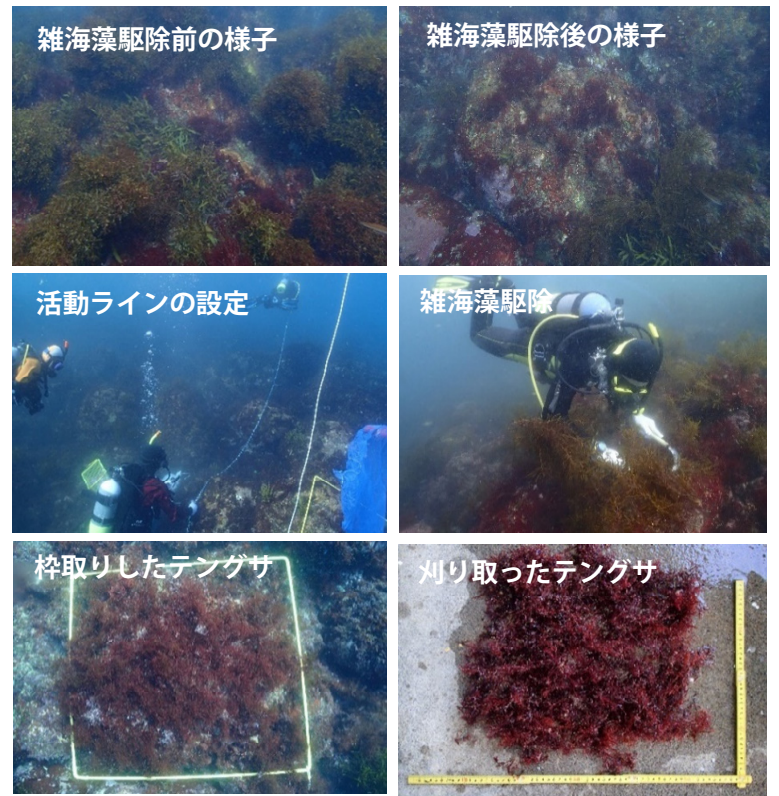
この減少は、漁業者の減少により、漁の際に行われていたテングサ場の維持・管理が不足したことが原因とされる。テングサ場の荒廃が深刻化した現在は、テングサ以外の海藻（以下、「雑海藻」という）が優占的に繁茂している。



### 活動実績

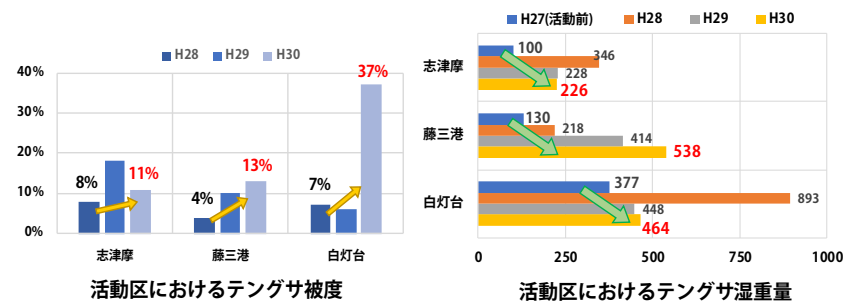
雑海藻除去は、地元ダイビングショップのダイバー、町おこし協力隊、静岡県水産技術研究所の職員が潜水し、鎌とスクレイパーを使用して岩の上のテングサ以外の海藻類を除去する。

除去回数は、各活動区1カ所につき年2回で、主に11月に実施する。また、雑海藻除去の実施面積は、活動3区域において各0.24ha、合計0.72haである。



### 活動の効果と課題

雑海藻を除去した結果、H28～30年の期間内で増減はあるが、活動区域3区域全てにおいてテングサ被度の増加がみられた。また、テングサ湿重量についても、活動区域3区域全てにおいて、活動以前のH27年と比較してH30年は増加している。

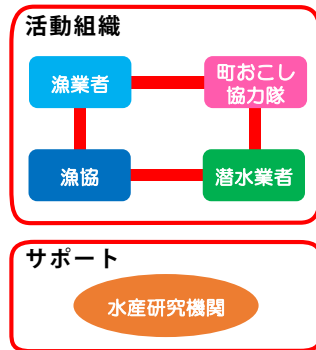


### 組織の設立及び活動方針

上記の課題のもと、平成28年度に「伊豆稲取藻場保全会」が設立された。当会は、地区でテングサ漁業を営む漁業者、漁協、地元ダイビングショップのダイバー、町おこし協力隊で構成されている。また、静岡県水産技術研究所がテングサ場の管理や造成の技術的なサポートを行っている。

活動の中心となっている漁協と地元ダイビングショップは当会発足以前から、種苗放流などで連携体制が構築されていた。

組織の活動方針は、雑海藻の除去による藻場の維持・保全である。また、活動の効果을把握するため、写真から景観被度を算定し、更にコドラート法によりテングサの湿重量を計測している。



現在、台風時の転石の被害からテングサの繁茂が妨げられている可能性がある。これらの影響からか、活動開始当初に予想したより、テングサの回復スピードが遅く、なかなかテングサ場が拡大しない。今後はテングサ場の回復スピードを上げる方法を検討する。また、雑海藻除去では、藻場を探索した後に手作業で除去作業を行うため、潜水作業者の負担が大きい。このことから、より少ない作業量で除去作業ができる方法を今後検討する必要がある。